

平成 30 年度 九州防災エクスパート会の活動状況

九州防災エクスパート会は、九州地方整備局のOBで組織している災害支援のボランティア団体です。これまで培ってきた防災の知識・技術を生かして、災害時には現場に出動し復旧工法の指導などを、また平常時には防災担当者や水防団などを対象に出前講座や水防工法の指導などをしています。平成30年度に新たに23名の会員が加わり、平成30年12月現在の会員数は441名です。

1. 平成30年度の災害と出動

ー 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）ー

関東地方がひと足先に梅雨明けし、西日本も間もなく梅雨明けと思われた7月5日から8日にかけて、梅雨前線が日本列島に停滞し、11府県で大雨特別警報が発表されるという、これまで経験したことがない長期間の異常な大雨になりました。

九州地方整備局管内でも、河川関係では、遠賀川・筑後川・松浦川・六角川・嘉瀬川・山国川・菊池川・球磨川の8水系で氾濫危険水位を超過し、23市・23町・5村で避難勧告等が発令されました。遠賀川・筑後川両水系の9つの水位観測所で観測史上最高水位を観測し、松浦川水系徳須恵川では河岸決壊に伴い護岸が崩落するなど危険な状態になりましたが、最悪の事態を招くことなく、なんとか乗り切ることができました。また、道路関係では、国道201号福岡県飯塚市、202号佐賀県唐津市、224号鹿児島市などで法面崩壊・土砂流出による通行止めが発生しました。

これらの災害に際し、九州地方整備局から当会に災害対応の助言・復旧工法の指導などの出動要請があり、のべ49名の会員がこの活動に参加しました。



ー 相次ぐ台風ー

7月28日に三重県に上陸し、西に進んで近畿・中国・九州を横断するという前例のないコースをたどった台風12号、9月4日に徳島県に上陸し、関西国際空港を水没させるなど近畿地方に強風と高潮で甚大

な被害を及ぼした台風21号など、接近・上陸した台風が多い年でした。

九州では大きな災害には至らなかったものの、9月30日に和歌山県に上陸した台風24号がもたらした雨により、大分市内の国道10号の法面が崩落しました。JR日豊本線と並行した区間であったため復旧工法が難しく、事務所の要請で検討会に参加しました。



2. 防災活動

九州地方整備局の本局・事務所で行われる水防演習・洪水対応演習・道路防災訓練・地震防災訓練・堤防合同巡視などに参加しました。

5月20日に鹿児島県薩摩川内市で川内川総合水防演習が開催されました。川内川支部の会員を中心に、近隣支部の会員も加わって、水防団や学生の指導にあたりとともに、松岡副支部長が解説者席で水防工法の目的・効果などを説明しました。

本部において防災課と意見交換を行うとともに、各地区においても、事務所との意見交換など、様々な活動を行いました。



平成30年度 防災エキスパート会の活動概要

1. 災害時の支援活動

平成30年度は、4月11日に中津市耶馬溪町で発生した土砂災害に始まり、7月5日から梅雨前線が西日本に停滞し、九州北部で活発化し各地で被害が続出しました。

また、台風24号豪雨による大分国道10号の被害を含め、7事務所から出動依頼を受け延べ49名が出動しました。

* 活動事務所：山国川(耶馬溪町)・武雄(松浦川災害)・佐賀国道(国道202号災害)・北九州国道(国道201号災害)・大分(国道201号災害)・筑後川(佐田川基盤漏水)・遠賀川

{ 下記 2活動を紹介 }

1) 耶馬溪町土砂災害対策活動(山国川)・・・H30年4月11日～14日

現場では、警察、自衛隊、消防、協力企業等による安否不明者の搜索活動が行われ、当会員は河道内の点検、TEC-FORCEのサポート、TEC-DOCTOR等の誘導などを行いました。



耶馬溪土砂災害対策活動状況

2) 7月豪雨による松浦川支川徳須恵川災害対応・・・武雄河川事務所

7月6日に徳須恵川左岸6K900付近の特殊堤(護岸)が約100m崩壊した。

また、堤防天端は国道202号との兼用で歩道も被災し、道路管理者の佐賀国道事務所と併行して被災状況の現地調査を行うと共に、対策工法の指導など実施しました。



被災状況



対策工法検討

2. 河川技術サポート活動

「河川技術サポート会」は、会員が経験した技術力や判断力の継承により整備局の事業推進に寄与するため、会の「河川分会」として発足させ、平成30年度は7事務所で様々な活動を行いました。

* 活動事務所：雲仙復興・大分・川辺川ダム砂防・熊本・宮崎・長崎・川内川

1) 雲仙復興事務所

[3活動を記載]

復興(砂防)事業の進捗状況の確認や無人化施工の現場視察を行い、当時の地元対応等での苦労話や今後の事業展開へのアドバイスなど意見交換を行いました。



雲仙復興事務所での意見交換



現地調査状況

2) 大分河川国道事務所

大野川河川整備計画における残事業が完了に近づいていることから、現地調査を行い次の事業展開を図るにあたっての課題等について意見交換を行いました。



大分河川国道事務所での意見交換



現地調査状況

3) 川辺川ダム砂防事務所

川辺川砂防事業50周年にあたり、砂防事業の進捗に伴う苦労話や地域振興、災害対応、今後の砂防事業を進めるにあたってのアドバイスなどについて意見交換を行いました。



川辺川ダム砂防事務所での意見交換



現地調査状況

3. その他の活動

九州防災エキスパート会は、平常時の防災関係活動、災害時の支援活動、河川技術サポート活動のほか、技術支援に係る「その他の活動」も行っており、下記2件について紹介します。

1) 水防工法指導 …… 筑後川河川事務所

(他3事務所でも実施)

佐賀県消防学校消防職員初任科教育の一環として水防工法の実技講師として依頼があり、新規消防署員22名(18歳～27歳)に、水防工法の実技の指導を行いました。



積み土のう工 実施状況



釜段工 実施状況

2) 安全講習支援活動 …… 宮崎河川国道事務所

事務所職員に発注者として最低限必要な安全管理の知識を、法律及び労災事故事例等を用いて説明を行いました。(4日間)

・ 講話時間＝約2時間×4カ所(事務所・3出張所)、参加者＝延べ31名



安全講習支援(講話)状況